

第5回 淀川水系猪名川圏域河川整備計画懇談会議

議事概要

1. 委員及び出席者紹介

- ・本日の会議の出席者は7名である。(全13名)

2. 第4回議事概要の確認とご意見等への対応

- ・第4回議事概要と出された意見等を確認した。

3. 河川整備計画における治水の考え方

【委員】最明寺川の右岸(南側)の地区(宝塚市南ひばりガ丘)では、今年の台風18号では6軒の床上浸水が発生し、道路はひざ上まで浸水した。川西市の方から洪水が来るので、この地区にも寺畑前川のような調節池を作るなどの対応をしてほしい。

- 【事務局】河川整備計画には河川の整備によって対応できるところと、河川の整備以外で対応するところがある。今回の浸水被害は内水によるものであり、河川整備とは別の対策で対処することになる。本日欠席の宝塚市にも詳細に伝え、今後の河川整備計画の参考とする。

- 【委員】寺畑前川は調節池の設置等の整備により浸水もなくなり、本当によくなった。

【委員長】河川整備計画と総合治水推進計画との関係を教えてほしい。

- 【事務局】河川整備計画は、主に河川管理者が実施する今後20～30年間に計画的に進める整備内容を定める。総合治水推進計画は概ね10年間の(下水整備も含めた)ハード整備に加え、校庭で一時的に雨水を貯留したり屋根に降った雨をタンクに貯留する「流域対策」、ハザードマップの作成等の「減災対策」を盛り込んだもの。河川整備計画の概ね30年間の中から10年の河川整備を切り出すとともに、より具体的な対策を総合治水推進計画に盛り込む。

【委員】平成26年8月洪水で宝塚市を含めいろいろな地区で浸水被害が発生しているが、河川整備計画にそれらへの対策についてどのように反映されるのか教えてほしい。

- 【事務局】被災箇所の復旧については河川整備計画に定める整備ではなく、災害復旧により対応する。なお、被災箇所については災害査定で概ね採択されると考えている。採択から漏れたところがあれば、県や市町の自らの財源で復旧を行っていく予定である。

【委員】宝塚市では、浸水した駐車場の嵩上げを行うと聞いているが、低い地区の浸水被害をより助長することになると考える。

- 【委員長】総合治水の考え方を河川整備計画に反映し、国・県・市町が一体となって治水に取り組んでいく表現を盛り込んでほしい。

- 【事務局】河川整備計画の中にも総合治水に流域一帯で取り組む旨の表現を盛り込む予定である。
 - 【委員長】複数の管理者がまたがっている河川の特徴を踏まえて、国・県・市町が一体になって取り組むという表現をいれるなど検討を願いたい。
 - 【事務局】管理者で調整して表現を検討したい。
- 【委員】最明寺川周辺が浸水する話はよく聞く。小中学校からは「災害・洪水と生物」という話をしてほしいというリクエストや、ホテルを守りつつ災害対策をどうしたらいいかといった、環境を守りながら治水を考える相談も受けている。この地区で、総合治水に重点的に取り組んではどうか。
- 【事務局】浸水の発生原因には、強い雨が降って河川に至るまでの下水道で能力をオーバーすることによる内水氾濫や河川から溢れる外水氾濫などいろいろあり、被害の原因に応じて流出抑制対策も含めた様々な対策を考えていくことが必要である。総合治水推進計画に盛り込めるかどうかかわからないが、被害を軽減する対策を市と相談していきたい。
- 【委員】宝塚市南ひばりガ丘地区周辺は、もともと沼地を宅地開発したところであり、水が集まってくる。最明寺川は昭和42年に災害があり、県が川を掘り下げて大きくしてくれてよかったが最明寺川右岸側の低い地域には川西市側から水が流れてくるようになっている。今までは降った雨が地中に浸透していたが、新たな宅地開発により降った雨がすべて低い土地に流れてくるようになった。
- 【委員長】参考にさせていただく。
- 【委員】猪名川の支川の上流に砂防ダムが建設されているが、堆積土砂で一杯になっている。砂防ダムの堆積土砂を取り除いてほしい。最近、山崩れ等でほとんど埋まっているような状態である。
- 【事務局】砂防ダムは山地から出てきた土石を留めて下流の住宅地等に被害が及ばないように整備している。整備当初は、土砂を溜めて下流を守る機能があるが、20年～30年経つと堰堤の水通しまで土砂が溜まり、溪流の勾配が緩くなることで下流への土砂災害を防ぐ機能をもっている。このことから、基本的に砂防ダムに堆積した土砂の撤去は現在のところは考えていない。なお、砂防ダムより下流の河川に流出して土砂が堆積していないかは、河川管理者が十分に監視し、堆積がひどいところは順次土砂を撤去していく考えである。
- 【委員】猪名川ではゴム堰（ラバーダム）になっているところがあるが、小戸井堰では固定堰が残されている。小戸の公園のところも工事されているようだが。
- 【事務局】小戸のドラゴンランドのところの池田床固(直轄整備区間)の話だと認識している。現在、河川整備計画で小戸の基準点で2,100m³/sを流す河川改修を進めている。ご指摘のとおり池田床固は洪水時に水位の上昇があるため、固定堰を少し切り下げて2,100m³/sを流す対策を現在取り組んでいる。河川整備基本方針に向けての長期的な計画としては床固自体を抜本的に改修するという事も視野に入れてこれから計画していく必要があると考えている。

【委員】魚が遡上しないため、漁業組合としてはゴム堰を問題だと認識している。魚道を作ってほしい。また、河川改修によって洪水時に川の流れるスピードが早くなっているため、今は魚が避難する場所がなくなっている。大水が出たら押し流されずに魚が避難、休憩できる場所をつくってほしい。川魚に愛情をもった河川改修を考えていただきたい。

- 【事務局】これまで魚が巣穴とするブロックを利用するなどの対策を実施したが、1つの洪水で埋まってしまうなど役に立たないこともあった。最近では、自然の力を利用しながら河川の形状がつくられるような川づくりもやっている。また、洪水のときに魚が逃げ込めるような護岸の構造についても研究が進んでいる。今後の事業において、先生や漁業組合の指導をよろしくお願ひしたい。

【委員】(直轄整備区間の)伊丹市の下河原地区にはヒメボタルの群生地があるが、これらの保全に配慮して河川工事を行っていただき、住民から喜ばれている。今後ともヒメボタルに配慮した工事をお願ひしたい。

- 【事務局】ヒメボタルの保全に配慮した河道の掘削工事を実施させていただいた。この取り組みを引き続き行い、モニタリングによって影響がないように配慮し、治水事業を推進していきたいと考えている。

【委員長】最明寺川のJRから宝塚と川西の市境では、アドプト計画によって、各自治会でガードレールから川側に木や草を植えている。堤防敷にバケツを置き、水を溜めることによって蚊が湧いたりするので、堤防のガードレールから川にかけては何も植えないでほしい。

- 【事務局】河川の管理面でアドプト活動の団体がいろいろ活動されているが、活動を停止されている団体もあるようだ。水やりのホースの放置や川の中で大きく育てた木など、適切でないものには定期的に指導を行っている。景観的にもよくできればと考えている。

以上